

編集 後記

早いもので今年も半年が過ぎました。振り返ると、今年前半には（特に年度が明けてから）、5月末の改正個人情報保護法の施行と研究倫理指針の見直し等に伴う手続きに追われた会員の皆様も多くおられたのではないかと拝察いたします。

さて、本号には原著3編、資料1編が掲載されています。まず、高齢者における口腔ケア拒否の要因として顔面や口腔内の過敏症状に着目し、特別養護老人ホーム入居者で実態とその関連要因を検討した報告です。過敏症状を有する要介護高齢者の口腔ケアの必要性が示唆されています。2編目は、在宅医療・介護に必要な多職種連携協働のための研修プログラムの短期的効果を検証した報告です。専門職間の連携活動を促進するきっかけ作りとしてプログラムが活用される可能性を述べておられます。原著のもう1本は、中高年者縦断調査の調査票とそのデータの二次利用によって、ソーシャルキャピタル指標の作成と妥当性検証を行った研究です。今後の日本のソーシャルキャピタルに関わる研究の進展が期待されるのと同時に、既存データの有効活用を示唆する研究と思われる。資料1編は、要介護高齢者の認知機能の5年間の変化を検討した報告です。介護保険認定審査の情報に基づき、認知機能の悪化予防の具体的な内容を示唆しています。それぞれ視点は異なりますが、いずれの報告も今後の高齢者の健康づくりに向けた基盤づくり、実践に必要な重要な知見と思われる。同時に改めて高齢者の医療、介護の課題が多様であることを認識いたしました。

本号の報告だけでなく、本誌に寄せられる多くの報告に当てはまることかもしれませんが、公衆衛生の実践には、日常の活動から得られる様々な情報の利活用がますます重要になってくると思われます。私自身、十分に理解したとは言い難いのですが、会員の皆様におかれましても改正個人情報保護法と研究倫理指針をよく読み解きながら、皆様の活動から得られる貴重な情報を活用して本誌まで投稿いただければ有り難く存じます。

(丹野高三)

次号予告（第64巻・第8号）

総説

風力発電等による低周波音・騒音の健康影響：疫学文献レビュー……………久保達彦，他

原著

インセンティブ付き健康づくり事業参加者のうち、誰がプログラムを継続できないか：報奨獲得への動機と継続率に関する実証研究

……………岡本翔平，他

飲食店での受動喫煙に関する意識と情報提供の影響：Web調査による喫煙者と非喫煙者の比較

……………諏訪清美，他